

ユニバーサルデザインとノーマライゼーション に関する一考察

～日本社会における役割と意味～

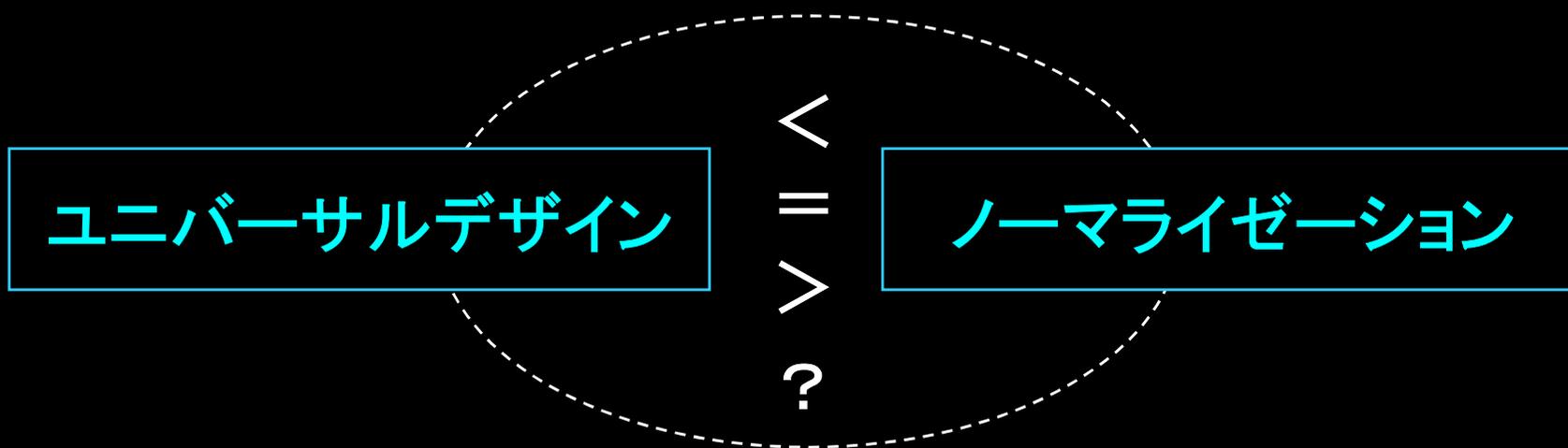
人間科学研究科

ボランティア講座ソーシャルサービス論M2

横田恭子



1 研究の背景(問題意識)



バリアフリー

インクルージョン

アクセシブル

メインストリーム



2 研究の目的

Universal Design

from USA

"UD"

Normalization

from North Europe

"NZ"

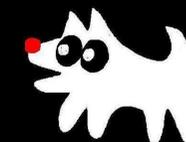
Japanese Society

日本に

ユニバーサルデザイン

ノーマライゼーション

どう浸透？ 意味は？
役割は？ 違いは？ 共通点は？
～日本社会における役割と意味～



3-1 先行研究

Universal Design

ユニバーサルデザインとは何か
(古瀬1996)

ユニバーサル・デザイン
(川内2000)

What's UD in USA ?

How to do UD in Japan ?

ユニバーサルデザイン

自治体政策とUD(波田2002)
都市交通のUD(秋山2001)
ユニバーサルファッション(田中2002)

Normalization

ノーマライゼーション原理
(中園1978)

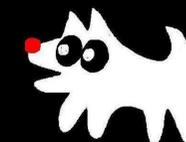
スウェーデンの知的障害者とNZ
(河東田1992)

What's NZ in North Europe ?

How to do NZ in Japan ?

ノーマライゼーション

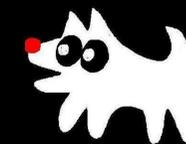
ノーマライゼーションへの道
(江草1982)
ノーマライゼーション研究
(大谷ほか1992~)



3-2 先行研究

- ◎ それぞれの発祥した国における概念の研究
(河東田1992、中園1996、川内2000など)
- ◎ 各概念の日本における実践方法を検証するもの
(中谷他1998、古瀬2001など)

- × ユニバーサルデザインとノーマライゼーションをあわせて検証する研究
- × ユニバーサルデザインやノーマライゼーションの日本社会における役割や意味を検証する研究



4 研究方法

1) 文献調査

→ 2つの概念が日本に伝えられた経緯、広がり方、使われ方を整理

1975～2003 現代用語の基礎知識、1981～ 厚生白書、

1990～2002 経済新語辞典ほか各専門用語辞典

1985～ 朝日新聞データベース、1981～ 日経新聞記事データベース

国立国会図書館蔵書検索・雑誌記事検索システムNDL-OPAC、

法令データ提供システム(総務省)ほか

2) インタビュー調査、質問紙調査

→ 日本社会における2つの概念の社会的役割や意味を検証



5 論文の構成

はじめに

1章 目的と構成

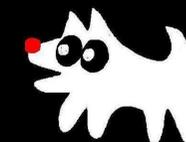
2章 定義（文献調査1）

3章 日本社会における広がり（文献調査2）

4章 インタビュー調査、質問紙調査

5章 考察

おわりに



6 発祥

Universal Design

1980年代～
アメリカ
建築、工業デザイン
ロン・メイスら
公民権運動



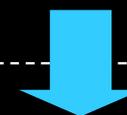
1995年～

ユニバーサルデザイン

建築、工業デザイン、
まちづくり..

Normalization

1950年代～
北欧
知的障害、福祉
バンク・ミケルセン、ニイリエら
民主主義、人権思想



1975年～

ノーマライゼーション

知的障害、障害者福祉
福祉施策..

日 本



7 定義

Universal Design

“The design of products and environments to be usable by all people, to the greatest extent possible, without the need for adaptation or specialized design.

(ロンメイス・1998 NC State Univ)

すべての年齢や能力の人々に対し、可能な限り最大限に使いやすい製品や環境のデザイン(川内訳)

Normalization

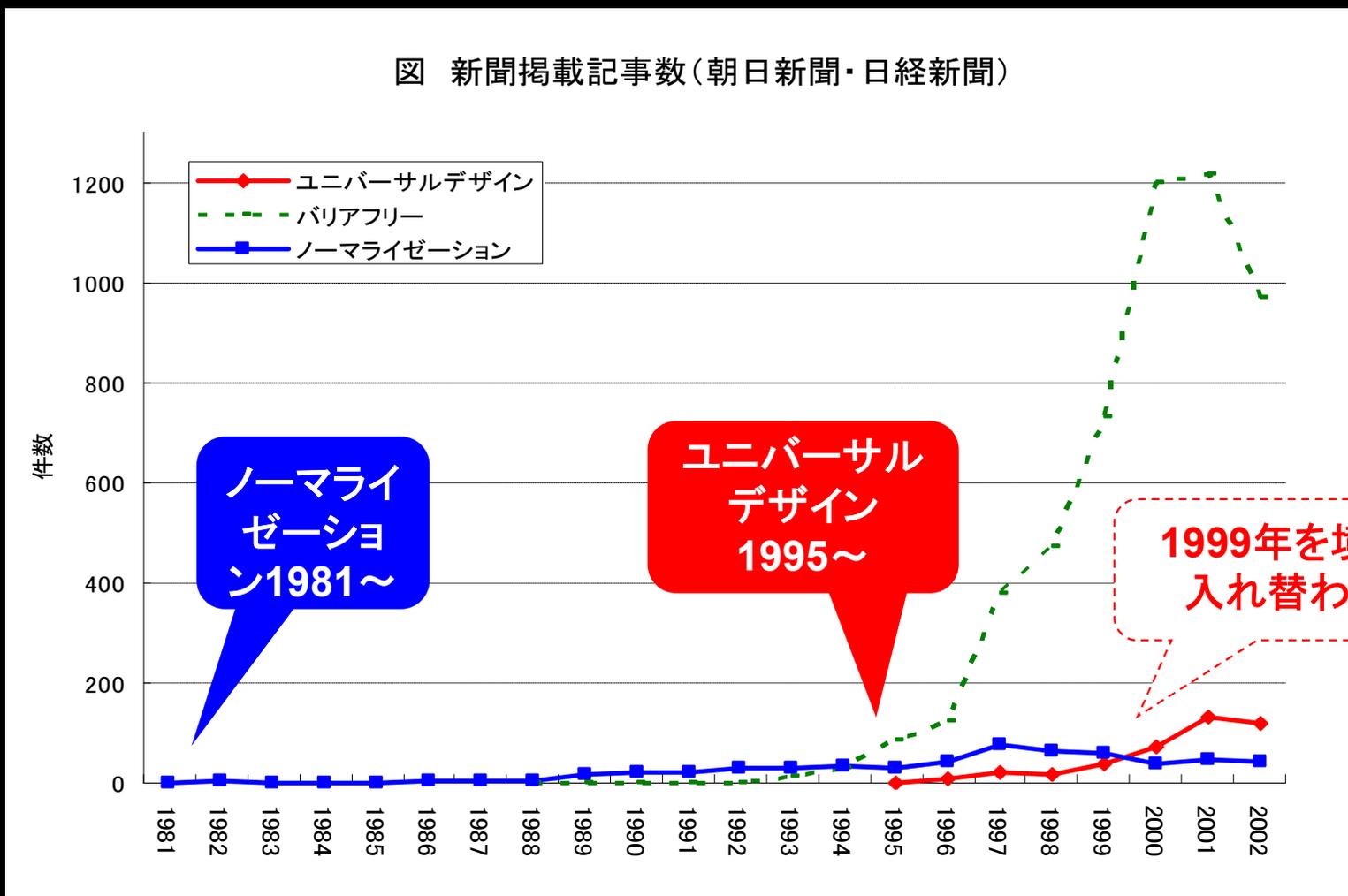
知的障害者の生活を可能なかぎり普通の状態に近づけるようにする(バンクミケルセン1959 中園訳)

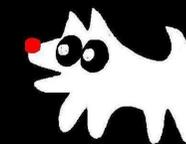
社会の主流となっている規範や形態にできるだけ近い日常生活の条件を知的障害者が得られるようにする(ニイリエ1963 河東田訳)



8 日本社会への浸透(1)-新聞記事数

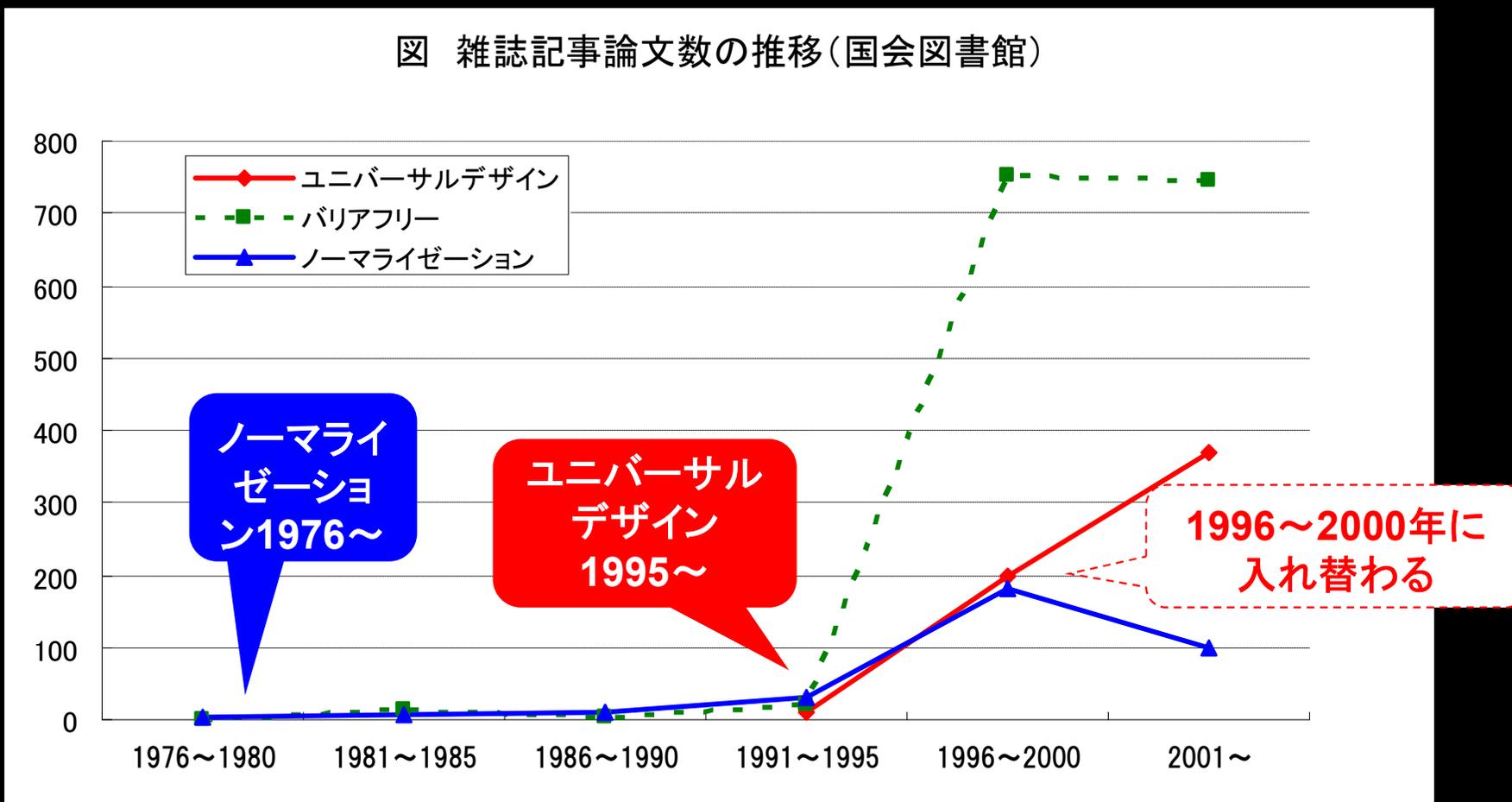
図 新聞掲載記事数(朝日新聞・日経新聞)

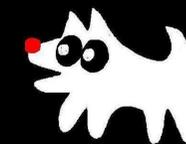




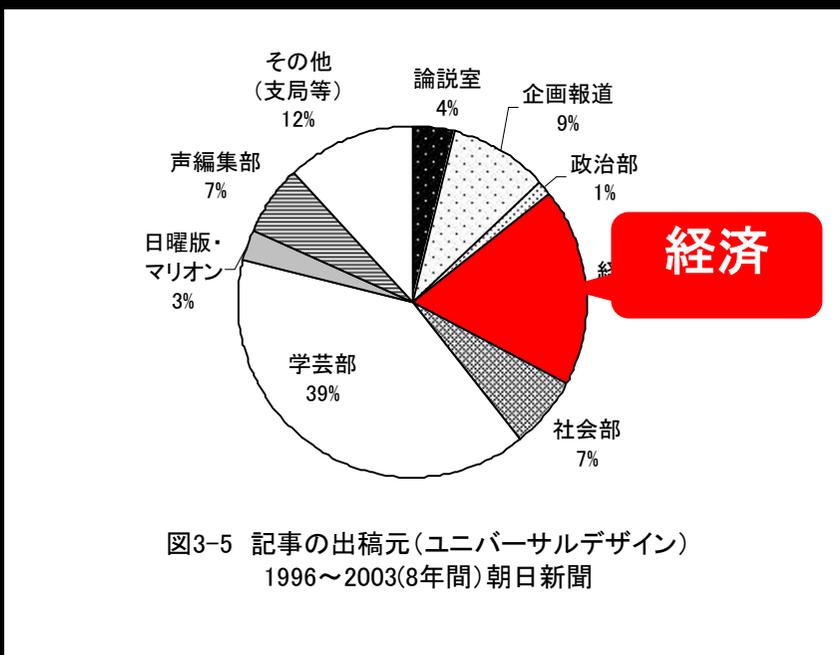
8 日本社会への浸透(2)-論文件数

図 雑誌記事論文数の推移(国会図書館)

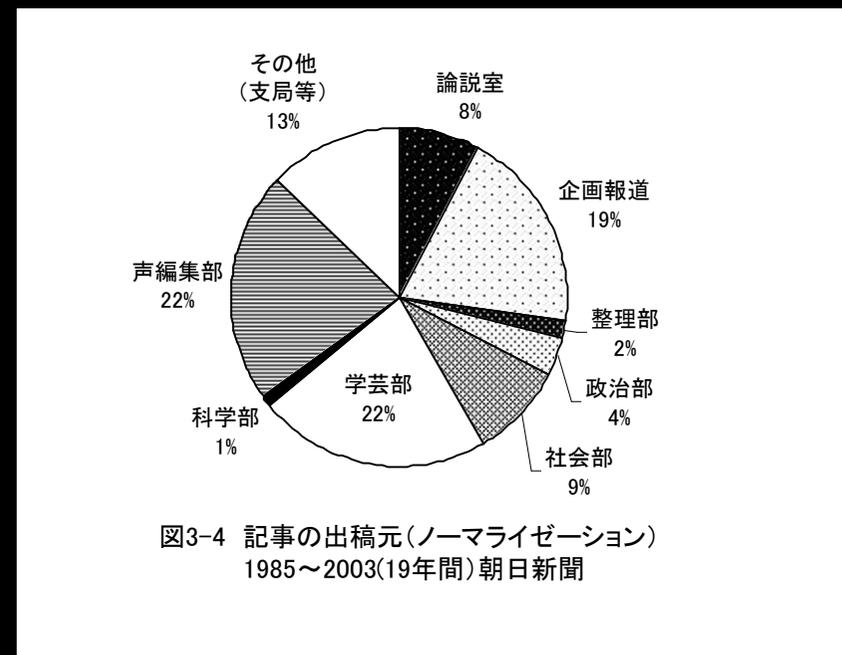




8 日本社会への浸透(3)-新聞記事分野

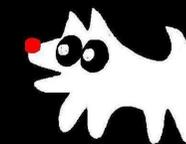


ユニバーサルデザイン

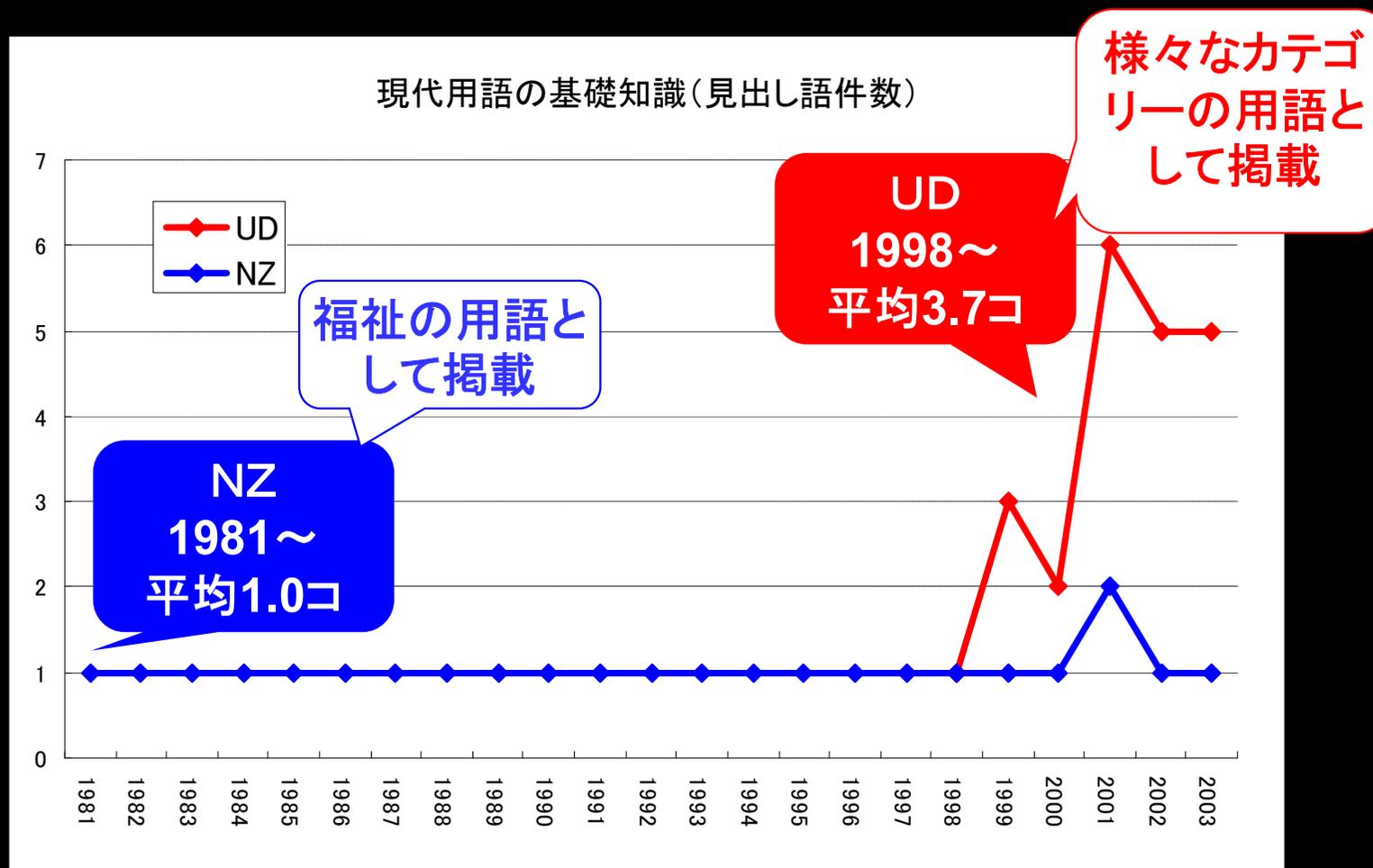


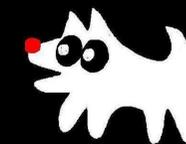
ノーマライゼーション

さまざまな分野の記事があるが、経済分野の記事はUDのみ

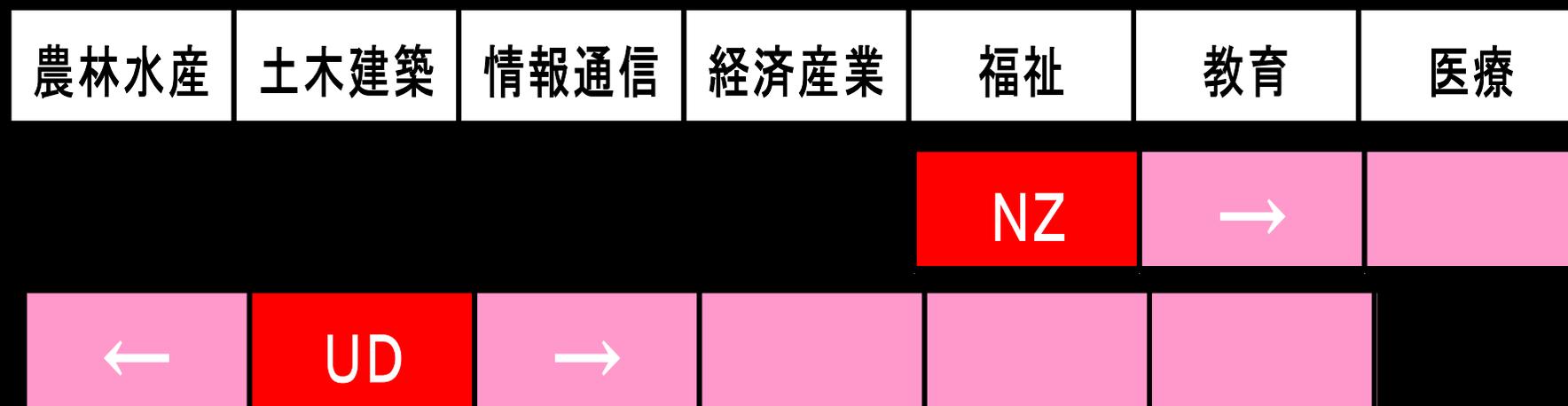


8 日本社会への浸透(4) - 「現代用語の基礎知識」



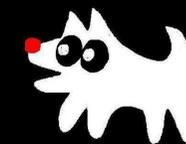


8 日本社会への浸透(5) -分野別広がり



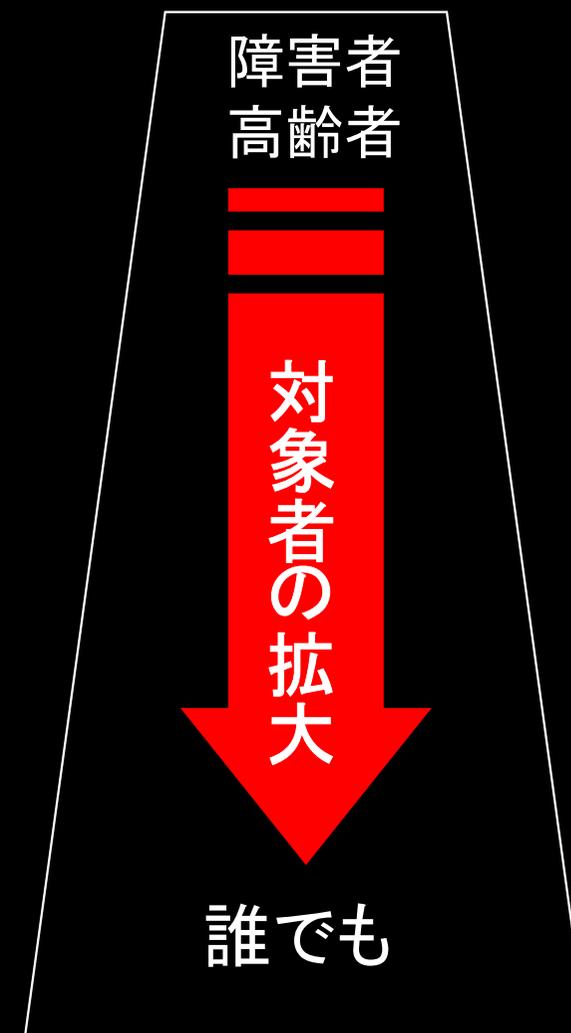
← 特定の分野から、様々な分野に広がっている →

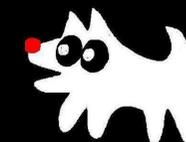
(新聞記事、「現代用語の基礎知識」、各種専門用語辞典の調査結果から作成)



8 日本社会への浸透(6)-社説分析

掲載日	タイトル	区分	対象
1985.11.17	もう一つの福祉見直し	NZ	高齢者
1986.11.6	うば捨て山をつくるな	NZ	高齢者
1988.11.27	グループホームを推進しよう	NZ	障害者
1989.3.15	日本型老人福祉を見直すとき	NZ	高齢者
1990.7.27	施設がだんだん遠くなる	NZ	障害者
1992.12.9	違うことこそばんざい	NZ	障害者
1993.3.29	障害があっても輝く社会に	NZ	障害者
1994.12.9	障害者は「人間」に戻りたい	NZ	障害者
1995.12.21	障害者は水先案内人	NZ	高齢者
1997.9.15	敬老は、さりげなく、いつも	UD	高齢者
1998.12.28	福祉改革/ふつうの生活の大切さ	NZ	だれにも
1999.9.15	「共用品」思想の定着を 敬老の日	UD	高齢者
2000.12.5	バリアフリー/障害者の知恵が必要だ	UD	だれにも
2001.9.6	支援の輪をもっと厚く 里親	NZ	子ども
2002.11.13	地域で暮らせる仕組みを 障害者プラン	NZ	障害者

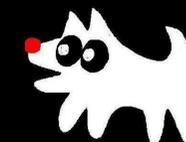




9 インタビュー調査、質問紙調査

対象 : 実際にこの概念と関わりながら各分野で活躍している人(27人)

大学など研究者	古瀬敏、田中直人、江草安彦、一番ヶ瀬康子
NPOなど活動家	川内美彦、白石正明、千葉忠夫
行政関係者	厚労省、経産省、内閣府、環境省関係者
マスコミ関係者	高島健夫、梶本久夫、河野秀忠、大熊由紀子
企業関係者	トヨタ自動車、松下、サンヨー、ヤマト運輸関係者



10 社会的役割

ユニバーサルデザイン

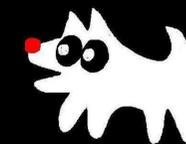
- ・「すべての人」という意識を根付かせる
- ・ベクトルを一方向に
- ・福祉を市場経済化する
- ・既存の枠組みを取り払う
- ・人やモノの本質の問い直す

経済・社会システム・価値観

ノーマライゼーション

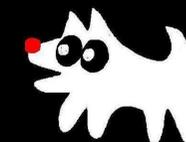
- ・多くの国民に障害者福祉の理念を合意して貰う意義
- ・措置としての福祉から、社会全体で支える福祉へ移行するスピードをはやめた
- ・草の根の哲学として効果

福祉・哲学・価値観



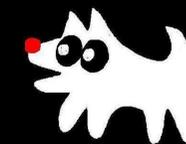
11 特徴(相違点)

ユニバーサルデザイン		ノーマライゼーション
手段、戦略・戦術	↔	目標、社会のあり方
実践・方法論的	↔	理念・概念的
ゼロからプラスへ	↔	マイナスからゼロへ
ものづくりの基本	↔	福祉の基本

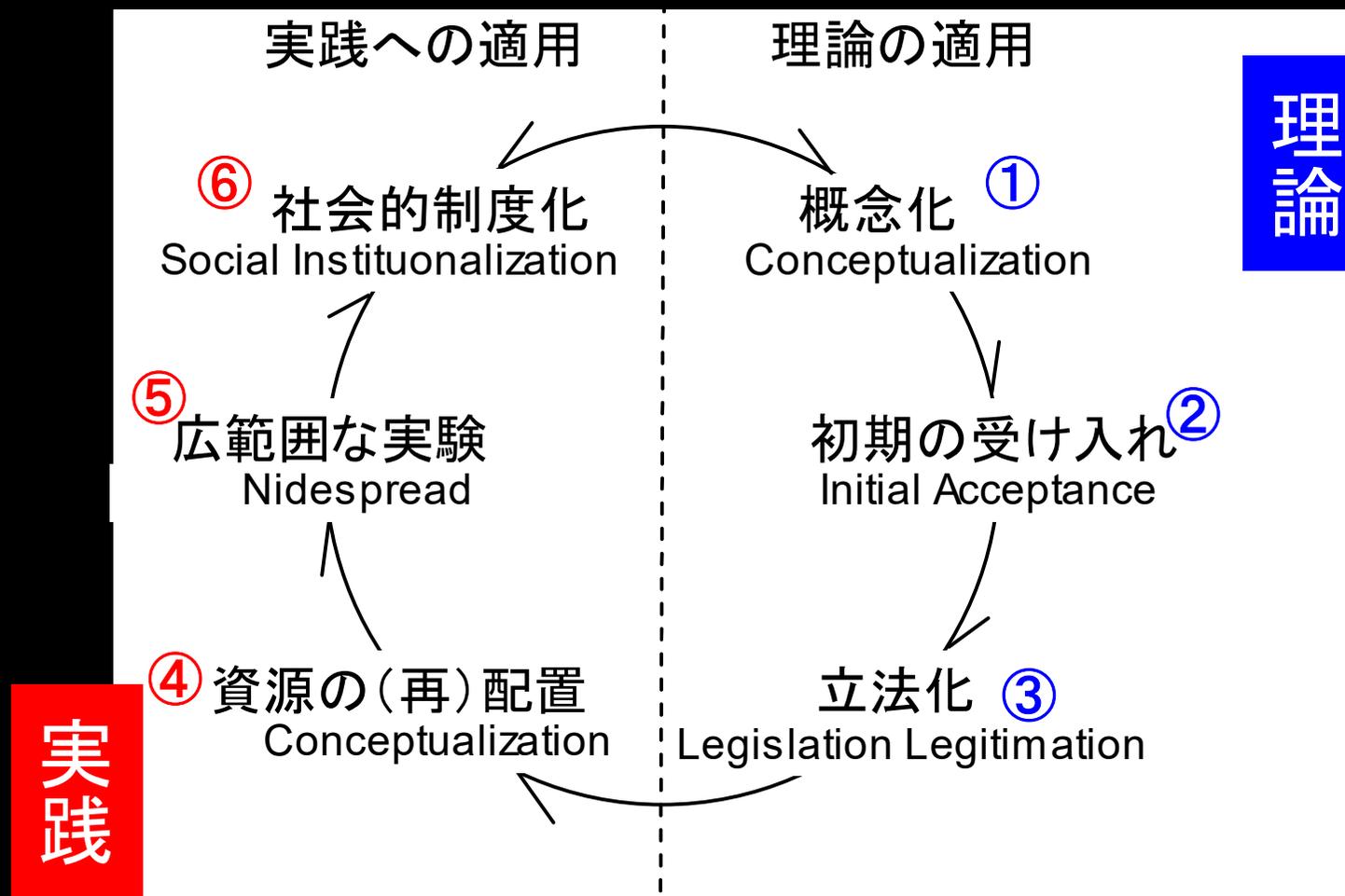


12 問題点

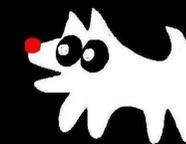
ユニバーサルデザイン		ノーマライゼーション
How to が先行して、本来の意味や目的が見えにくい	⇔	スローガンにとどまっている(実践がない)
経済に偏重	⇔	福祉に偏重
「デザイン」の意味がわかりにくい(薄っぺらい印象)	⇔	「ノーマル」の意味がわかりにくい(誤解が多い)
流行語・ブームとして消えていく懸念	⇔	権利思想が薄くなっている、まだ実現していない



13-1 社会的発展のプロセス



(R.Flynn 1980)



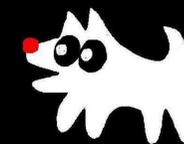
13-2 社会的発展のプロセス (ノーマライゼーション)

理論

- ①1970年代～ 研究はじまる
- ②1980年代～ 国際障害者年を契機に一般の活字や場面に
- ③1990年代～ 福祉八法の改正、介護保険法など

実践

- ④1980年代～ 知的障害グループホーム事業
- ⑤1990年代～ ノーマライゼーション7カ年戦略
- ⑥2000年代～ 施設解体宣言



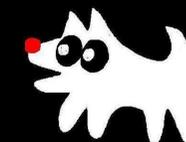
13-3 社会的発展のプロセス (ユニバーサルデザイン)

理論

- ①1990年代～ 学者たちの研究はじまる
- ②1995年 ～ 新聞・雑誌の特集など様々な場面に登場
- ③2000年代～ 交通バリアフリー法、ハートビル法改正など

実践

- ④1990年代～ 企業のUD商品開発など
- ⑤1990年代～ UDのまちづくり実践など
- ⑥1990年代～ 地方自治体のUD助成など



13-4 社会的発展のプロセス

ユニバーサルデザイン

1990代～ **理論** (概念化)



1990代～ **実践**

“理論と実践が同時進行”

ノーマライゼーション

1970代～ **理論** (概念化)

1990代～ **実践**



“概念化が完了・実践の段階に”

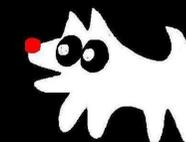


14 共通点

ユニバーサルデザイン

ノーマライゼーション

- ・めざす社会観（ベクトル）が同じ
- ・人間中心の思想（ヒューマニゼーション）
- ・言わなくてもよくなるのが理想
- ・マイノリティの問題を社会的に解決する姿勢



15 意味

ノーマライゼーション

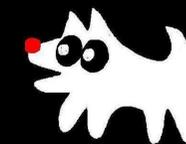
人は誰でも当たり前
の生活をする権利がある

社会はそれを実現する責任
がある

ユニバーサルデザイン

すべての人のための社会（生活）をつくる
（＝仲間はずれをつくらない）

すべての人のよりよい生活（社会）をめざす思想



おわりに

ユニバーサルデザインもノーマライゼーションも、輸入された概念であり、カタカナで表記されることや、様々な立場の人が様々な目的で用いたりするため、すべての人に同じように理解され浸透しているわけではない。

しかし、現代の日本社会におけるよりよい社会、誰もが住みよい社会を模索するための重要なキーである。

本研究で得られた考察が、その、めざす社会を模索する過程の一部であれば・・